

VISION 2020

成和学生が育む心情文化を社会にも発信

「第19回全国中和文化祭」東日本・西日本大会



「良心革命を起こそう！成和学生」のスローガンの下、「第19回全国中和文化祭」の東日本大会（11月7、8日、千葉県）と西日本大会（同14、15日、岡山・兵庫県）が開催されました。中和文化祭は、成和学生による心情文化活動の集大成として毎年秋に開催。大会は今年から2日間にわたって行われ、地区大会で優勝した代表が、チャート原理講義、原理講義、スピーチ、エンターテイメント部門の4部門において、これまで精誠を尽くして準備してきた内容を発表しました。

○東日本大会

大会1日目は千葉市の千葉中央修練所において、チャート原理講義と原理講義部門の2部門の発表が行われました。この2つの部門は、成和学生が統一原理を学び講義することを通して、統一原理に対するより深い理解と学習意欲を向上させることを目的としています。

まず、中学生によるチャート原理講義部門では、発表者6人が多くの聴衆を前に堂々と情熱的に1人7分間にわたって講義。原理講義要約訓読チャート3時間用のパワーポイントを使用し、絵や図・写真など活用しながら、自ら工夫して作成したスライドも挿入して、原理の内容を分かり易く伝えました。

続いて、原理講義部門では、発表者7人が、統一原理を学び自ら感動した内容を10分間の講義にまとめて発表しました。講義をする姿、声、表情から、真の父母様の解かれた統一原理の素晴らしさを自ら実感し誇りを持って講義していることが伝わってきて、会場にいる審査員と聴衆を感動させました。

大会2日目は千葉県八千代市内の会場で、スピーチ、エンターテイメントの2部門の発表が行われました。この2つの部門は、成和学生が育んできた心情文化を教会内外に発信していく「文化発信」というテーマを持って、学校の友人・知人にも伝えていける内容として各地区大会で発表されたものです。

スピーチ部門では、発表者7人が「良心と成長」をテーマに7分間のスピーチを行いました。発表者たちは、家庭・教会・学校などの生活圏や修練会等における成長体験を力強くスピーチ。2015年度の成和学生部スローガン「良心革命を起こそう！成和学生」を中心として、成和学生として日々成長する姿を証しました。（3面に続く）

- ①文妍様と記念撮影する岩手教区代表（11月8日）
- ②東日本・エンターテイメント部門で優勝した岩手教区の劇と歌（11月8日）
- ③西日本・エンターテイメント部門で優勝した奈良教区の表現演舞（11月15日）
- ④東日本大会で発表者を応援する青年学生（11月8日）
- ⑤西日本・原理講義部門で優勝した佐賀教区代表（11月14日）



①東日本大会の閉会式でメッセージを語られる文妍様 (11月8日) ②東日本大会のスピーチ・エンタメ部門の上位入賞者 (11月8日) ③東日本大会のチャート原理講義・原理講義部門の発表者 (11月7日) ④西日本大会のチャート原理講義・原理講義部門の発表者 (11月14日) ⑤西日本大会のスピーチ・エンタメ部門の上位入賞者 (11月15日) ⑥東日本大会のエンタメ部門で準優勝を獲得した東神奈川教区の劇・ダンス (11月8日) ⑦西日本大会のエンタメ部門で準優勝を獲得した岡山教区のパフォーマンス (11月15日) ⑧東日本大会の閉会式で発表者を激励される文妍様 (11月8日) ⑨東日本大会のチャート原理講義・原理講義部門の会場 (11月7日)

続いて、発表者全員が会場に集まり、真のご家庭から文妍様をお迎えして開会式が行われました。

エンターテイメント部門では、「忠孝」をテーマにした8つの教区の成和学生会の発表が行われ、真の父母様や孝進様が天に捧げられた「忠孝」の精神を相続しようと努力しながら輝く成和学生の姿を披露しました。

閉会式では各部門の表彰が行われた後、文妍様メッセージ。2015年度の成和学生部および大会スローガンである「良心革命」について、真の父母様の「良心」についての名言を引用しながら、普段の生活における良心生活の重要性とその深い意味について解説、参加者を激励されました。

最後は、伊藤安昭・青年学生局成和学生部長のリードで億万歳四唱を行い、大会は幕を閉じました。

○西日本大会

大会1日目は岡山市の岡山教会で、チャート原理講義と原理講義の2部門の発表が行われました。チャート原理講義部門9人、原理講義部門9人、合計18人の発表者による素晴らしい講義が披露され、大会は大きな盛り上がりを見せました。

中学生によるチャート原理講義部門では、各自7分間の持ち時間で原理チャートのパワーポイントを使用して発表。どの発表者も、統一原理の内容をよく理解し、分かり易い例話や説明をしながら講義を自分のものとしていました。発表者の中には中学生になったばかりの1年生もいましたが、明るく元気で

一つ一つの言葉にみ言を伝える内的な力が感じられ、見事入賞を果たしました。

続いて行われた原理講義部門では、1人10分間の板書による講義が行われました。心情的な講義、落ち着いた丁寧な講義、情熱溢れる元気な講義など、発表者それぞれの個性が溢れているながらも、統一原理の内容をしっかりとした構成と展開で伝える素晴らしい内容に、会場の誰もが感動を覚えました。

大会2日目は、兵庫県赤穂市内の会場で、スピーチとエンターテイメントの2部門の発表が行われました。発表には、学校の友人・知人を招待し、自分が通っている成和学生会を紹介する取り組みを行った学生もいました。

スピーチ部門では、「良心と成長」というテーマで9人が発表。自分自身の成長体験を7分間のスピーチにして、家族の絆や兄弟姉妹・友人の絆を、様々な葛藤を乗り越えて育んで行く内容や、成和学生として描く未来や夢・志を力強く語る姿に、聴衆は大きな感銘を受けました。

続くエンターテイメント部門では、「忠孝」をテーマに9つの教区成和学生会が発表を行いました。劇、ミュージカル、合唱、創作パフォーマンス等、それぞれの教区が独創性と創造性を感じさせるユニークな発表を披露。その工夫された素晴らしい発表の数々に、時折会場は歓声に包まれ、拍手喝采が起こりました。

閉会式では、各部門の表彰が行われ、東日本大会での文妍様メッセージをVTRで視聴。最後は、伊藤安昭・青年学生局成和学生部長による億万歳四唱で大会は終了しました。

【参加者の感想】

■岡山教区 (高2女子)

今回は、友人と、その友人のお母さんを西日本大会に招待しました。友達を中和文化祭に誘うことが、家庭連合について話す良い機会になりました。私は今まで「謎が多い」と言われ続けてきたので、全てを知ってくれたような気がしてとても楽になりました。

■友人 (高2女子)

友達の新しい姿が見られて新鮮であり、かっこよかったです。また、他の人たちも演技がすごく上手で、最後に歌を全員で歌っている所がすごく感動的でした。後ろのスクリーンに映し出される絵もかわいかったし、手で文字を作ったりする所も発想力が豊かだなあと感じました。

■岡山教区 (高1男子)

今回、学校の友達2人を呼びました。教区の兄弟姉妹が新規の祖父母や学校の友達を呼んでいるのを見て、とても刺激を受けました。そして僕もご父母様を証する為、この西日本大会で絶対に呼ぼうと、その友達やクラスメイト一人ひとりのことを祈りつつ、為に生きる実践を心がけて過ごしていきました。すると、友達が参加できるようになり、岡山教区や他の教区の発表を見て喜んでみたいで良かったです。それぞれの発表が良い発信となっていたのだと思います。

■友人 (高2男子)

普段自分が見ることの無いようなものを見られて新鮮でした。世の中にはいろんな考えの人がいるのだと改めて実感し、そうした方々と交わることのできる良い機会になりました。また、学生さん達のパフォーマンスは、様々な工夫や今まで積み重ねてきたであろう努力が見られて、圧倒されました。どのパフォーマンスも素晴らしいものばかりでした。学校の文化祭もこれくらい熱が入ってほしいのになあと感じました。

<東日本大会結果>

チャート原理講義部門

優勝：3地区 西埼玉教区代表 (中2男子) 「創造目的」
準優勝：2地区 青森教区代表 (中1女子) 「自由と墮落」
3位：14地区 南千葉教区代表 (中2男子) 「万有原力と授受作用および四位基台」

原理講義部門

優勝：1地区 北海道教区代表 (高3女子) 「創造目的」
準優勝：14地区 南千葉教区代表 (高2女子) 「重生論」
3位：6地区 東神奈川教区代表 (高1男子) 「み旨に対する予定、み旨成就に対する予定」

スピーチ部門

優勝：5地区 南東京教区代表 (高3女子) 「Rich！」
準優勝：4地区 新潟教区 (高2男子) 「良心の覚醒」
3位：1地区 北海道教区代表 (高2女子) 「小さな勇気、そして大きな希望」

エンターテイメント部門

優勝：2地区 岩手教区 劇・歌 「志~世界を変える優しい力」
準優勝：6地区 東神奈川教区 劇・ダンス 「My Conscience」
3位：5地区 南東京教区 ダンス・劇 「神の子 Standard」

<西日本大会結果>

チャート原理講義部門

優勝：10地区 香川教区代表 (中3女子) 「総序」
準優勝：12地区 南福岡教区代表 (中2女子) 「終末と現世」
3位：16地区 岡山教区代表 (中1男子) 「万有原力と授受作用および四位基台」

原理講義部門

優勝：12地区 佐賀教区代表 (高2女子) 「み旨に対する予定・み旨成就に対する予定」
準優勝：9地区 西大阪教区代表 (高2女子) 「アブラハムの家庭を中心とする復帰摂理」

3位：7地区 岐阜教区代表 (高2女子) 「アブラハムの家庭を中心とする復帰摂理」

スピーチ部門

優勝：16地区 兵庫教区代表 (高2女子) 「神様の声」
準優勝：11地区 西広島教区代表 (高2男子) 「良心と私に託された願い」
3位：9地区 東大阪教区代表 (高1女子) 「愛することの成長」

エンターテイメント部門

優勝：15地区 奈良教区 表現演舞 「良心革命 私たちの心に忠孝の精神を取り戻せ！」
準優勝：16地区 岡山教区 劇・合唱・パフォーマンス 「忠孝~為に生きる私たちに恐れなどあり得ない~」

3位：12地区 佐賀教区 ミュージカル 「ありがとう。」

“天の本流で真の父母様に侍る孝子孝女となりましょう”

文妍娥様を迎えて 12、13 地区で特別集会



①「第13地区特別集会」(11月9日、熊本市)
②「第12地区特別集会」(11月10日、福岡県久留米市)
③食口と握手をされる文妍娥様 (11月9日)
④福岡・西公園の聖地で祈禱される文妍娥様 (11月10日)

11月9、10日の両日、九州の12、13両地区に文妍娥様をお迎えし、地区主催の特別集会が開催され、あわせて約1000人が参加しました。

11月9日に熊本市内の会場で行われた「第13地区特別集会」には、沖縄を含む南九州の全ての県から470人を超える食口が参集。

司会の永井義行・鹿児島教区長の開会宣言、村井里美・大分教区婦人代表の代表報告祈禱に続き、熊本教区の女性デュオ「Heavenly Wind」による祝歌が会場を盛り上げました。

金成南第13地区長の挨拶に続き、妍娥様のご登壇。「私は真のお母様の愛を伝えるために来ました。お母様は、皆様が天の本流・中心で真の父母に侍り、孝子孝女として立って欲しいという願いを持っておられます。近くにいるからといって心が通じるのではありません。また、言語や文化が問題でもないのです。(み言の訓読、祈禱を通じて)親の心情と事情、願いを知る努力が必要です」と強調。最後に「お母様がいつも皆様を誇りに思っていることを忘れないで下さい」と述べ、参加者を激励されました。

妍娥様の祝禱に続き、青年のリードにあわせ参加者全員が「み旨の応援歌」を元気に合唱。咸鏡模沖繩教区長の先導で億万歳四唱を行い、特別集会は終了しました。妍娥様が笑顔で食口一人ひとりの手を取って別れを告げられる姿が印象的でした。

13地区で集会を終えられた妍娥様は、そのまま12地区の

福岡教区を訪ね、夕食懇談会に参加されました。

下川善文福岡家庭教会長の司会で始まった懇談会は、「全ての兄弟姉妹を愛したいというお母様の思いを伝えるために来ました」と妍娥様が語られる通り、月曜礼拝のため来教していた青年60人を懇談会に招き、お母様からのプレゼントを手渡されるなど、出席者がお母様の愛を身近に感じることで恵み深い時間となりました。

翌10日には、「第12地区特別集会」が福岡県久留米市内の会場で行われ、地元メンバー約500人が参加。また、インターネット通じて12地区の全ての教会で集会を同時中継、地区内の多くの食口が参加しました。

妍娥様は、真の父母様、孝進様、ご家庭のエピソードを交えながら、「自信を持って天一国創建に邁進して下さい」と激励。参加者たちが深い恩恵を実感する時間となりました。

参加者からは「本当に真の父母様のことを証しされることに使命をもって生きていらっしゃる方であることを実感しました」(久留米家庭教会 I 婦人)、「妍娥様は、自分の目を見た事に対しても、その背後にある心情世界を探り求めていかれるところが素晴らしいと思いました」(長崎家庭教会 T 婦人)などの感想が寄せられました。

“天が共にある私たちは 発展せざるを得ない”

文妍娥様のメッセージ

以下のメッセージは、11月9日に熊本市内の会場で行われた「第13地区特別集会」で、文妍娥様が語られた内容を翻訳し、要点を抜粋したものです。

真のお母様の愛を伝えるために来ました。皆様にお会いできて本当に嬉しいです。

今回の訪日に先立ち、真のお母様にご挨拶をしてきました。お母様は、お父様の聖和3周年が過ぎる中、日本において世界平和統一家庭連合が出發したことを本当に喜ばれ、皆さんを誇りに思われています。

お母様は皆さんに対し、「天の本流で真の父母様に侍り、天一国の民として責任と使命を果たすことを切に願っている」とおっしゃいました。

お母様は、皆さんが最後まで天の本流に乗って歩み、霊界で真のお父様の前に孝子孝女として誇りある姿で立つ日が来ることを願っておられるのです。

聖和3周年記念行事の期間中、悟らされることがよくありました。天のみ旨の前に重要なものは何か、本当に残らなければならない中心は誰か。結論的に言えば、真の父母様です。

(お母様は)何かを考えたら、それがすべて成されるまで心が落ち着かないと言われます。そういうご性格ですから、それほど考え、悩まれるでしょうか。目的が成されるまで精誠を尽くされ、ひたすら待たれます。そういうお母様ですから、当然夜は眠くなられません。午前2、3時と本当に朝早くから一日を始められます。真のお父様の聖和以降、お母様がご父様のような生活をされています。本当に驚くばかりです。

私が「圓母平愛財団」に責任を持つことになり、「私にできるだろうか」などと否定的な考えで心を悩ませていた時のことです。

お母様は「どうして先のことを心配するのか。私たちは天の父母様・真の父母様を中心として、み旨を中心として行く者たちだ。この先はずっと発展するのに、どうしてお前はうまくいかないことばかり考えるのか」と言われました。

お母様は、私を慰めようとされただけでなく、真実を語っておられるのです。「天の父母様が共にある私たちは、発展せざるを得ない」と確信されているのです。

そのみ言に触れ、やはり私自身が問題なのだと思えました。私は「起こってこないことに煩わされるのではなく、この状況を発展させるために具体的に何をすべきなのか。もっと肯定的に考え、天を信じていくのだ」と考えるようになりました。



文妍娥様

事情と心情と願い——。同じ生活圏、同じ空間で生活していても、この3つが通じなければ、お互いに誤解が生じます。

また、言語や文化さえ同じであれば当然これらは通じるものだと考えるかもしれませんが、決してそうではありません。真の父母様の近くに侍っていたとしても、父母様の事情、心情、願いを知ろうと努力しなければ、決して分からないのです。

逆に、実際には遠くにいたとしても、私たちが真の父母様についていつも学び、感じようと努力し、語られることに基準を合わせようとするならば、真の父母様の事情、心情、願いに通じることができるのです。言語や文化の問題ではありません。

お母様のお側で過ごしながら、私はそのような結論に至りました。ですから私は皆さんに、早々と結論を下すのではなく、すべて見て、学んで、感じてみた上で結論を出しても遅くはないことをお伝えしたいです。

(お母様について)学べば学ぶほど私が感じるのは、お母様は、お父様が語られたみ言、お父様の願いをすべてご存知であり、同じように行っておられるということです。お母様は、お父様とは異なる表現方法や言葉を使われることもあります。しかしその中に込められた意図、目的、ご心情は全く同じなのです。

お母様は、私たちの母、全人類の母です。私たち一人ひとりを子女として愛し、心配され、激励したい。全世界の子女の前にすべてのものを準備して逝きたいというお母様なのです。そういうことをいつも感じています。

お母様が何かをなさる背後には、父母の心があります。真の父母、真の母という言葉だけではなく、私たちはその愛を感じなければなりません。

これからどのような困難に直面するのかは分かりません。目の前が真っ暗になる時があるとしても、真のお母様のお心、愛、そのご心情を感じているので、私はこの道から絶対に離れられません。だから一生懸命生きよう、最善を尽くそうという心で、一日一日を懸命に生きています。

このように語ってきましたが、真の父母様のご心情は、もっと深く大きいということを心に留めておいてください。

この新しい時代、お母様のように「天の父母様、真の父母様を中心に、私たち発展する道を行くのだ」という気持ちを忘れないでください。

お母様はいつも皆さんを誇りに思い、見つめてくださっていることを覚えていてほしいと思います。

母の国・日本の使命は世界の教育

「家庭連合 Web 教会」 開設式



① Web 教会の意義を訴える宋龍天総会長
 ② 開設式の参加者たち
 ③ Web 教会の除幕式
 ④ 宋龍天総会長、阿部美樹 Web 教会会長、徳野英治会長（左から）

11月10日午後、東京・渋谷の松濤本部で「家庭連合 Web 教会開設式」が行われました。

Web 教会は、家庭連合信仰生活サポートサイト「Family-Library」(http://uc-library.org) 内に、新たに「Web 教会礼拝説教」コーナーを設け、インターネットを通じて礼拝説教を配信。インターネットに接続できる環境があれば、誰でも閲覧可能です。

開設式は、Web 教会の「教会長」に就任した阿部美樹・教会成長研究院長の司会でスタート。

まず、徳野英治・世界平和統一家庭連合会長が挨拶し、「いよいよ今日から、インターネットを通して、サイバー世界に善のメッセージ、天のみ言が伝達されるようになります」と宣言、参加者から大きな拍手が沸き起こりました。

続いて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が記念メッセージの中で、「今まで日本の食口が流してきた血と涙の精誠、真の父母様の勝利圏とともに、統一教会時代を終えて家庭連合時代が出発していくようになりました。家庭連合時代において、母の国・日本はすごく重要な使命を持っています。それは救国・救世の使命です」と強調。「天の父母様は、日本の祝福家庭を通して、日本の国を天が願われる方向に導き、全世界の救いを進めようとしてされているのです」と語りました。

また、宋総会長は「日本で家庭連合が出発した今、このように Web 教会開設式を迎えたことは、本当に大きな意味があります」と指摘。国内だけではなく、世界各地でみ旨の最前線に立っている日本食口に向けて、「天一国時代にふさわしい摂理観、信仰観、教会観を伝え、天の伝統と心情を定着させていくことができます」と語りました。

さらに、宋総会長は「日本国内には、教会に来ることができない食口たちが多くいます。彼らが訪れてくるためのプラットフォームとなるのが、この Web 教会です」と説明。「教会で説教を聴くだけではなく、Web 教会を訪れ、子女たちと一緒にみ言を聴いてください。二世たちも好きなときに訪れ、み言を通じて新しく出発することができます。最も人気のあるサイトになっていくことを願っています」と祝福の言葉を贈りました。

続いて、宋総会長、徳野会長や本部局長により除幕式が行われ、大画面テレビに写し出された「Web 教会」が登場すると、歓迎の拍手が起こりました。

参加者全体で記念撮影をした後、記念すべき第1回目の Web 説教、阿部 Web 教会長による「幸せな家庭、躍動する日本、希望の世界へ」(25分)の冒頭部分を全体で視聴し、開設式は終わりました。

二世祝福を拡大していく基地に

「祝福推進センター」が開設



① 佐野邦雄・家庭教育局長
 ② 笹田俊明・祝福推進センター長
 ③ 畠山憲太郎・二世祝福推進委員会事務局長
 ④ 「祝福推進センター」の除幕式
 ⑤ 開所式を祝う父母委員会委員やマッチングアドバイザー



祝福二世の祝福推進を本格化させるために望まれてきた「祝福推進センター」が11月11日、いよいよオープンとなりました。この日、東京・渋谷の光言社ビル1階で行われた開所式には、佐野邦雄家庭教育局長、多田聰夫家庭教育部長、松山平男家庭部長をはじめ家庭教育局のスタッフ、また父母委員会の委員やマッチングアドバイザーなど50人が参加。

司会者による開式の報告祈禱の後、佐野局長、父母委員会の横井捷子委員、千葉中央修練所の中村惣一郎所長、笹田俊明・祝福推進センター長の4人により除幕が行なわれました。

除幕の後、笹田センター長(1800家庭会会長)は「もともとガレージであったこの場所から、北海道から沖縄、そして全世界に祝福を拡大していきたい」と挨拶。続いて二世祝福推進委員会の畠山憲太郎事務局長が経過報告を行い、「このセンターは①情報センター②教育センター③交流センター④相談窓口⑤国際祝福推進の窓口——の5つの機能をもって推進を図ります」と説明しました。

佐野局長は「新しい家庭連合時代を迎え、祝福家庭がスクラムを組んで証ししながら氏族伝道を進める時です。天一国を成すうえで絶対に必要なのが祝福。どなたでも来て頂き、相手を

探す基地となってほしい」と励ましました。

中田欣宏 777 家庭会会長による祝辞と乾杯の後には、多くの関係者から挨拶がありました。

2013年10月、777 双や1800 双、6000 双などの祝福家庭が先駆けて進めてきた二世祝福の取り組みを受けて、徳野英治・世界平和統一家庭連合会長、李成萬・本部企画本部長の指導のもと、二世祝福推進委員会が発足。2年余りの準備期間を経てこの度、二世祝福を推進する基地として、二世祝福推進センターが開設される運びとなりました。

同センターは、急増していく二世青年ならびにその家庭(父母)に対する教育、父母自身によるより自主的な活動、より体系的な祝福サポートを推進していくため、事務局を家庭教育局内に設置。具体的には今後、①二世祝福候補者に対する祝福前教育の企画・実施、②各祝福双の祝福推進委員を中心に、今まで交流の少なかった各祝福双の壁を越えて親同士が深く交流し、加速度的にマッチング・祝福を推進、③祝福後のケア・教育を充実させ、互いに支援しながら祝福家庭の共同体(コミュニティ)を実現——などを進めていきます。

“真のお母様の心情の相対に立ちましょう！”

徳野会長が高知、徳島、宮崎を巡回



①高知教区青年部のメンバーに熱弁をふるう徳野英治会長(11月10日) ②名節の式典に参加した徳島家庭教会の食口たち(11月12日) ③宮崎家庭教会で行われた第13地区勝利出発式(11月14日) ④特別集会に集った高知家庭教会の婦人食口たち(11月11日) ⑤功労者に『真の父母経』を授与(11月14日、宮崎家庭教会)

11月10日から14日にかけて、徳野英治・世界平和統一家庭連合会長が、高知、徳島、宮崎の各教区を巡回して地元メンバーたちと交流、2015年の残された期間において各自が改めて勝利を決意する時間となりました。

11月10日夜、高知家庭教会で行われた特別集会には、青年を中心に100人以上が参加。まず、赤いチマチョゴリを着た国際家庭の祝福二世が、歓迎の歌を2曲披露しました。

続いて、祝福二世による伝道勝利の証しと石尾豪志高知教区長の挨拶の後、徳野会長が登壇。夢とビジョンを抱き、それを実現するために日々の努力を怠らないこと、祝福結婚を通じた人格完成を目指し、生涯に一度は世界に出て視野を広げることなど、5つのポイントを語りました。

翌11日は李倉培第10地区長が駆けつけ、高知教区特別集会が行われ、婦人食口など約130人が集いました。婦人メンバーの証しや石尾教区長、李地区長の挨拶に続き、徳野会長が説教を行い、真のお母様の心情と事情、願いに言及しながら、神氏族メシヤの使命完遂を強調しました。

同日、徳野会長は徳島市に移動、地元食口120人が集まった特別集会でメッセージを語りました。

徳野会長は、韓国・清平摂理が新しい時代の幕開けを迎えたことを指摘する一方で、「祝福の恩恵に与っている私達こそが、真の父母様と一体圏を成し、み旨成就に邁進しよう」と訴えました。

翌12日午前7時から、徳島家庭教会で「第56回 真の子

女の日」と「第28回 天宙統一開天日」を祝賀する式典が行われ、40人が参列。

小畑守男徳島教区長の司会で始まった式典は、敬拝と代表報告祈禱に続き、徳野会長が記念説教で、「真のお母様の心情にお応えする一番の恩返しは、お母様の心情と事情、願いと一つとなってみ旨を成就することであり、神氏族メシヤを勝利し、親族から社会、国家、全人類に真の父母を伝えることです」と語り、集まった食口達に決意を促しました。

14日には、宮崎家庭教会の礼拝堂で「2015年総決算 13地区勝利出発式」が行われ、13地区の食口320人が参加しました。

天一国孝子賞勝利者、天一国經典『真の父母経』伝授者への表彰状授与、金成南・第13地区地区長の挨拶に続き、徳野久江会長夫人は「日本は母の国として、真のお母様の心情の相対に立ちましょう」と呼びかけました。

徳野会長は講話で、お母様の事情・心情に言及しながら、「6000年目にして真の父母が地上に降臨され、私たちはその真の父母に出会い祝福の恩恵に与っています。これこそが奇跡の中の奇跡ということです。お父様に心配をかけまいと歩まれるお母様の精神を相続していきましょう」と語りました。

最後に、食口全員で「み旨の応援歌」を合唱し、教区長、教区婦人代表が決意表明をして式典は終了。恩恵深い出発式となりました。

天の父母様と真の父母様の愛を実感

「天宝会」兵庫支部の活動レポート



①馬車に乗って楽しむ家族(5月) ②お弁当を食べながら懇談のひとつとき(9月) ③大きなぶどうをもぎ取る参加者(9月) ④ポニーに人参を食べさせる女の子(5月)

11月18日、神戸家庭教会で祝福二世の障害者の会「天宝会」兵庫支部集会が行われ、初めての参加者を含め12人が参加しました。

今年1年間の活動報告、参加者の自己紹介、来年の活動内容の検討を行った後、集会に駆け付けた陸泰昊第16地区長が、出席者一人ひとりの心情に深く響くメッセージを語りました。

「障害を持って生まれた子たちは、歴史の蕩滅を背負って生まれたのです。だから家系にとって未来が明るくなります。90%以上は霊的問題です。信仰の基準を立てる試練を試練として受けることを通して、祝福の実体をつかむことができます。(中略) 神様も心痛いのですから、私が(親が)感謝すること、申し訳ないと思うことが大事です。信仰の力は心を大きく育てます。夫婦で協力して行きましょう！」

参加者全員が、天の父母様と真の父母様に喜びを返していくことを決意し、この日の集会を終えました。

「天宝会」兵庫支部は、今年6月で発足6年目を迎えました。2カ月に1度、定例父母集会を開催し、2年目からは子供達を中心に家族で交流できる野外活動を企画してきました。

今年も2カ月に1回、父母集会を開催し、教区家庭教育部のサポートを受けながら、京都や鳥取からも教区を超えて参加者があり、それぞれの教区で支部発足を参考にしていました。

昨年まで年1回だった野外活動は、今年は2回に増加。

APTFの協賛を受け、教区スタッフの力添えに加えて青年ボランティアも募り、スタッフ会議を重ねて安全に楽しめるよう計画・準備しました。

5月、三木ホースランドパーク(兵庫県三木市)で野外活動を実施。ポニーや馬車に乗り、ちょうど開催されていた馬術大会を鑑賞することも出来ました。また、お弁当を食べながら、歌やジャンケンゲームを楽しみました。10家庭25人のほか、教区スタッフ2人と青年ボランティア3人が集まり、陸地区長もスケジュールの合間に駆け付けました。

9月にはぶどう狩りを行いました。食口が経営するぶどう園での開催で、今年で4回目。13家庭27人と、青年ボランティア4人、教区スタッフ2人が参加しました。残暑厳しい時期でしたが、大切に育てられた広いブドウ棚の下で、日差しも和らぎ、親子でよく熟れたぶどうの房を探しました。

自然の中で家庭同士の交流を持ちながらお腹いっぱいになった後には、セミやカブト虫を見つけ、走り回って遊ぶ子供達を青年がサポート。支部発足以来、年々成長している子供達の姿を見ることができ、参加者たちは天の父母様に愛されていることを感じ、真の父母様を中心にお互いの家族が兄弟姉妹であることを感謝する機会になりました。

兵庫支部は、定例父母集会やスタッフ会議などで様々な情報を共有しながら、今後もより良い会とするために協力し合っています。

“家庭は愛を学ぶ訓練道場”

群馬でファミリーフェスティバル 2015



①約1200人が参加した「ファミリーフェスティバル」②講演を行う徳野英治会長 ③主催者挨拶を行う上條啓介地区長 ④フィリピンでのボランティア活動について証しする祝福二世 ⑤群馬教区の聖歌隊「ティアーズ」の合唱

【参加者の感想】

■群馬県会議員

参加してとても驚きました。愛の本質の話は大変衝撃を受けました。今後、自分もお話する時に、徳野会長の講演を引用したいと思いました。

■元埼玉県町村議会議長会会長

徳野会長の講演では、家庭の役割、愛の問題をわかりやすく話して下さってとても感銘を受けました。聞いている人にユーモアを交えて笑わせたり、真剣に訴えてひきつけたり、あっという間に時間が経ちました。私も家に帰ってさっそく妻に報告しました。

■群馬県高校野球関係者

大変説得力があり、素晴らしいお話でパワーを感じました。家庭連合には、こんな立派な方がいるんですね。このような話をしていけば、人が大勢増えるだろうと思いました。

11月3日、群馬県藤岡市内の会場に徳野英治会長をお迎えし、「ファミリーフェスティバル 2015 in 群馬」が開催され、県議会議員をはじめとする9人の有識者を始め、新規・再復帰のゲスト520人を含む1143人が参加しました。

群馬教区では上條啓介第4地区長の「家庭連合になって最初の大きな大会であり、全食口が1人の新規ゲストを動員し、神氏族メシヤの出発の摂理にしよう」という掛け声のもと、心を一つにして大会の成功の為に、精誠を尽くしてきました。

開会に先立ち、中和文化祭第4地区大会で優勝した成和部が元気でエネルギー太鼓の踊りを披露。司会の開会宣言の後、上條地区長が主催者挨拶を行いました。

来賓の祝辞と祝電披露に続いて、フィリピンでボランティア活動に参加した16歳の祝福二世が証しを行い、「看護師になって早くフィリピンの貧しい人たちの為に役立ちたい」と決意表明。また、1年前に徳野会長主礼の祝福式に参加した夫婦が「バラバラの家庭が夫婦、親子の絆を取り戻すことが出来ました」と涙ながらに語り、参加者に感動を与えました。

続いて、徳野会長が特別記念メッセージを贈りました。

その中で、徳野会長は「最も大切なものは何ですか？ お金でしょうか、健康でしょうか？」と参加者に問いかけたうえで、「結論を言えば、愛情です。愛情は家庭で培われます。それ故に、家庭は愛の学校、愛を学ぶ訓練道場なのです」と分かりやすく家庭の大切さを語りました。

また、文鮮明師のみ言を引用しながら、結婚の価値や愛の器官の大切さなどをユーモアたっぷりに解説。「今の家庭崩壊の問題を解決するのは、私たちの運動しかない」と訴えました。

第2部では、群馬教区の聖歌隊「ティアーズ」が「上を向いて歩こう」「未来へ」の2曲を素敵な歌声で披露。また、壮年部で結成した「群馬ファーズ」が、「もみじ」「栄光の架け橋」の2曲を力強く感動的に歌い上げました。

大抽選会に続き、最後は参加者が手を取り合って「手をつなごう」を合唱し、蔡東朴副実行委員長のリードで億万歳四唱を行い、幕を閉じました。

全国の伝道の証し

「心の書写」で「家庭天国」を目指す

長崎教区 長崎家庭教会 女性教員

私は、今までに幾度か「書写大会」に参加して感動し、主人にも書写を勧めて二人で実践していました。今年7月の「書写大会」は、ちょうど日曜日でしたので、主人と義母の3人で参加したいと思いました。

それで、霊の親のご夫婦をお願いして、自宅に訪問してもらい、義母を誘って頂きました。霊の親のご主人は、私の主人と50年来の親友であり幼馴染です。その為、お互いの家族のこともよく知っており、信用も絶大でしたので、義母は「行くけん！」と即答して参加してくれました。

当日会場に着くと、スタッフの声掛けもあって、義母は「前に行こうで！」と、最前列に座ることになりました。文鮮明先生を知っていた義母は、上映されたビデオを見るなり、「ああ！この人！」とつぶやいていましたが、その後のエンターテインメントをととても楽しんでいる様子でした。

浅川勇男先生の講話は、途中で義母がトイレに行ってしまったので、全部の話を聞くことができませんでしたが、自宅に戻った時に、主人が分かり易く説明してくれました。家に戻ってからも、「楽しかったね！よかったね！」と、何度もニコニコ顔で話していました。

その翌日の夜から、主人が「かあちゃん、書写ばするよ」と声をかけるようになり、必ず3人で書写を行うようになりました。

義母は12年前、右手を骨折したので、字を書くのが少し大変なのですが、一文字一文字を丁寧に書いています。そして、終わった後はお互いが、「今日も1日、無事に終わって良かったね！ありがとうございました！」と、自然に言葉が出てくるようになりました。

そのように言葉に出すと、不思議に義母に対して感謝の気持ちが湧いてきました。そして、義母への尊敬と愛情が次第に強くなり、最近ではトラブルもなく、毎日仲良く過ごすことができるようになりました。

ちなみに私は、性格的に意地っ張りなところもあるのですが、最近では義母に対して「すみません」「ごめんさい」

と素直に言えるようになったという心情の変化に本当に感謝しています。

8月9日に再度、霊の親夫婦が我が家を訪ねて下さった時、義母が「亡くなった主人がいつも私の右肩にいて、守ってくれとる」と突然言い出しました。初めて聞いた内容だったので驚きましたが、「死んだ後も、あの世で主人とずっと一緒にいたい」と話してくれました。

そこで、霊の親が義母に「あの世に行っているお父さんと永遠に一つになって、天国に行く為のお祈りを受けませんか？」と聞くと、すぐに承諾してくれました。こうして8月22日に教会で行われた祝福式に、喜んで参加してくれました。

当日は、少し緊張した面持ちでしたが、祝福式も無事に終わり、祝賀会にも参加してくれました。義母は「長生きして良かった。今日は本当にいい日だった」と喜びの感想を言い、最後は主人と一緒にカラオケを歌って、とても喜んで帰宅しました。

家族で書写を始めてまだ日も浅いのですが、一人ひとりの心に確実に変化が起きています。今まで十分ではなかった夫婦愛、親子愛、嫁姑愛がだんだんと育まれ、幸せな日々を送ることができる様になりました。

「心の書写」を始めて、本当によかったです。「家庭天国」を目指し、今後も家族で続けていこうと思っています。

